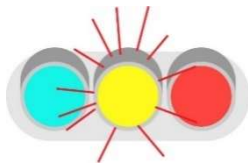


今は黄色信号点滅のとき 止まる必要はないがよく見て通ろう

新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が全面的に解除され、町には人びとが溢れ始めました。しかし、新たに東京で22人、北九州市で21人の感染者が出るなど再び増えてきており、第2波が懸念されています。

忘れていけないことは新型コロナウイルスが完全に消えたわけではないということです。今でも海外では一向に収まる気配がありません。恐らく今後もどこかに生き残り続け、季節的に流行する感染症として位置づけられるのではないかと思います。



合唱や吹奏楽などの音楽をやる人たちはそれぞれが置かれた位置で何ができるか模索していると思います。6月から公共施設が解禁になっても大きな声を出す活動には貸し出さないといわれ、困り果てている方々がたくさんいます。一方で、通常に貸し出すところもあり、ではどうやって歌えばよいのか、最低の三密回避や、マスク着用、手洗い励行、できればフェイスシールドもと安全策をどこまでやればよいのか判断に困ります。

山中伸弥・京都大学教授は、「今は黄色信号が点滅している状態だから、止まることはないがよく見て通ろう」と仰っています。宣言が解除されたから「青信号」になったと勘違いしてはいけないということです。黄色が点滅している信号は、停止しなくてもよいが「徐行」しながら周囲に「注意」して進めという合図です。一気に開放することなく、慎重な対応を心掛けたいものです。

埼玉県久喜市の施設取り扱い指針

埼玉県久喜市「新型コロナウイルス対策本部」の5月25日付指針における「施設の利用」は以下のように注意喚起が基本になっています。

- 適切な感染予防対策：施設内換気、設備消毒、手指消毒用アルコールの設置、咳エチケット等の注意喚起チラシの掲示、発熱や咳等の呼吸器症状者への利用自粛の呼びかけの徹底。
- 利用施設の利用：施設や利用者の特性、リスク評価を踏まえ実施可能な予防策を講じる。屋内運動施設等、これまでクラスターが発生した施設類型についてはとくに慎重に

判断する。

- 適用期間：令和2年12月31日までとし、感染症発生状況により見直す。

全日本合唱連盟の新しいメッセージ

5月27日、全日本合唱連盟は岸信介理事長名で「合唱を愛するみなさまへ」という新しいメッセージを出しました。

「状況の好転を受けて、みなさんも合唱活動の再開を模索しているところだと思います。少人数でお互いの距離を充分にとり、換気や消毒をこまめに行ないながら、マスク着用で練習を再開された合唱団があると聞いています。とてもうれしいニュースです。

しかし、ワクチンや薬の開発には今しばらくの時間がかかりそうですし、第2波、第3波の可能性も指摘されています。まだまだ練習に参加することを控えたい方もいらっしゃるでしょう。これまで「活動地域の感染状況をふまえ、感染予防に十分配慮し、練習の一時見合わせを含め活動について慎重に判断してください」とお願いをしまいましたが、今でも地域によって状況が異なり練習再開について一律に申しあげることではできません。

国、自治体、教育委員会、施設等の指針や方針をそれぞれで確認の上、くれぐれも無理をせず、お互いが安心して、安全に合唱活動できるよう、しっかり話し合って慎重に判断してください。」

4月10日の時点では「残念ながら感染拡大の勢いはやまず、現状では終息の見込みは立っておりません。また、どれほど気をつけて行なったとしても、『人が集まって声を合わせる』合唱活動そのものが感染を引き起こしてしまう可能性は否定できません。合唱を愛するみなさまにはとてもつらい決断になりますが、当面の間、合唱団の練習を取り止めていただくようお願いいたします。誰もが安心して合唱を楽しめる日が一日でも早く訪れるように、今は自粛につとめ、それぞれがご自宅でできる活動に専念してください。」と、合唱の自粛を促していたのに比べると状況がだいぶ良くなってきたとの認識が窺えます。

各支部・都道府県連の方針を受け、各団の事情を勘案して対処してゆく必要があります。

但し、前のめりの姿勢には注意しましょう。

